

ふれあい広場あつべつ・科学館公園の再整備計画

(案)

平成●年●月

厚別区

目次

はじめに	P. 1
第1章 計画策定の背景	
1 計画策定の目的	P. 2
2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の概要	P. 3
3 新さっぽろ駅周辺地区のまちづくり計画について	P. 4
4 アクションプランでの位置付け	P. 5
第2章 ふれあい広場あつべつ・科学館公園を取り巻く現況	
1 札幌市・厚別区の現状	P. 6
(1) 人口	P. 6
(2) 公共交通機関	P. 9
(3) 周辺施設	P. 11
2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の利用状況	P. 16
(1) 広場の利用状況	P. 16
(2) 公園の利用状況	P. 24
3 利用者等のニーズ調査	P. 26
(1) アンケート調査	P. 26
(2) あつべつ区民協議会（厚別のにぎわい検討委員会）からの意見収集	P. 27
4 老朽化施設の状況	P. 28
(1) 広場	P. 28
(2) 公園	P. 29
5 周辺開発の状況（G・I街区の開発想定）	P. 30
第3章 再整備方針	
1 再整備のテーマと方針	P. 32
2 各エリアに求められる役割（ゾーニング）	P. 33
3 再整備内容について	P. 35
- 資料編 -	
1 ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会での検討について	P. 40
2 アンケート調査のまとめ	P. 00

はじめに

札幌市・厚別区・新さっぽろ駅周辺を取り巻く状況は … まちづくりの上では非常に大きな転機を迎えており、ふれあい広場あつべつ及び科学館公園の再整備を通じて、地域を中心とした市民交流を促進し、より多くのにぎわいを創出することができるよう再整備を行っていきます。

※文章作成中

厚別区長 平木 浩昭

第1章 計画策定の背景

1 計画策定の目的

現在の厚別中央市民交流広場（愛称：ふれあい広場あつべつ）の場所は、1989年（平成元年）の厚別区の誕生とともに「厚別区民まつり」の会場として利用されるようになり、多くのにぎわいや交流が生まれ、区民に親しまれる空間へと変貌していきました。

利便性の高い新さっぽろ駅周辺地区において、将来にわたってこのような役割を担い、そして活用される場所を望む声が高まり、1996年（平成8年）には、「札幌市民交流広場条例」において、憩いと集いの場を提供する施設として条例広場に位置付けられ、ステージや音響等の設備が整備されました。

その後、YOSAKOIソーラン祭りの新さっぽろ会場となる「あつこい」「新さっぽろ冬まつり」「厚別区子どもまつり」など大きなイベントが開催されるまでに成長し、現在に至るまで、多くのにぎわいを生み出しています。

また、隣接する科学館公園は、青少年科学館のエントランス広場としての役割も踏まえ、1983年（昭和58年）年に特殊公園として供用が開始されました。噴水のモニュメントや日時計などの設備が配置されるとともに、多様な機能集積が進む駅前周辺において、自然を感じ、やすらげる貴重なスペースとして、現在に至っています。

このように、「ふれあい広場あつべつ」（以下、「広場」という）と「科学館公園」（以下、「公園」という）は、新さっぽろ駅周辺地区における貴重な財産となっていますが、整備から相当期間が経過し、設備や舗装の老朽化が進んでいます。

その一方で、周辺地区では市営住宅団地跡地を活用した新たな民間開発が計画されており、今後、まちが大きく変貌し飛躍する可能性を秘めています。

そこで、広場・公園について、引き続き利用者の安全性と利便性を確保するとともに、将来の更なるにぎわい創出に寄与することができる一体的な再整備を目指し、その方向性を示すことを目的として、本計画を策定します。

なお、本計画の策定にあたっては、地域の皆様にご協力いただき「ふれあい広場・科学館公園のあり方検討委員会」を開催し、現状の分析やアンケート調査結果等を踏まえた「望ましいあり方や再整備内容」等に関する意見をいただき策定いたしました。（詳細は資料編〇ページをご覧ください。）

2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の概要

広場・公園は、厚別区の中心部である厚別中央地区に位置します。北側には商業施設や JR 新札幌駅があり、広場・公園内には地下鉄新さっぽろ駅の1番出入口があります。東側には区役所や区民センターなどの公共施設があり、同じ街区内（西側）には青少年科学館があります。

【広場・公園の概要】

○所在地：札幌市厚別区厚別中央1条5丁目

○面積：ふれあい広場：約 5,000 m²、科学館公園：約 9,900 m²、計 約 14,900 m²

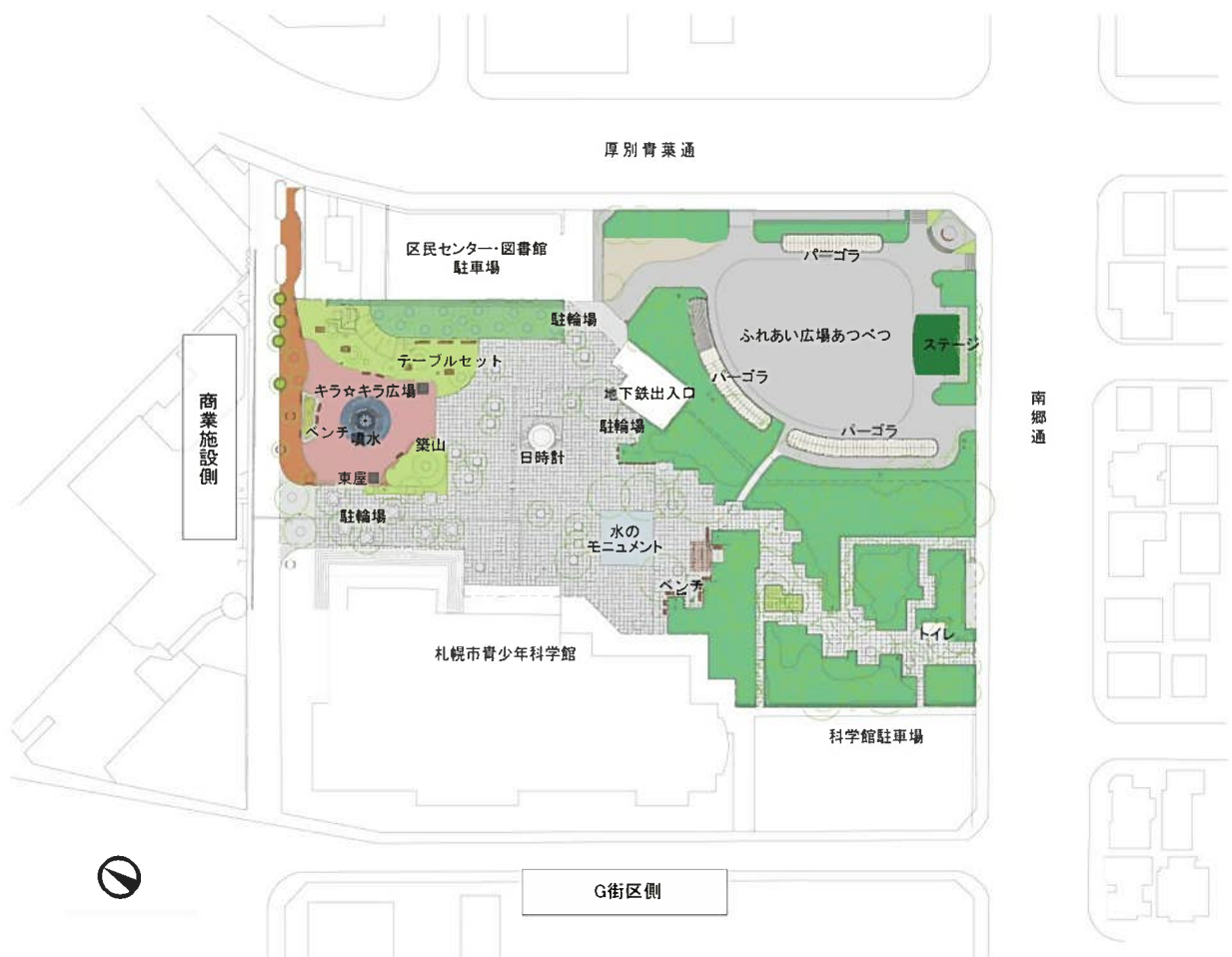


図 1-1 ふれあい広場あつべつ・科学館公園現況図

※パーゴラとは、常設の屋根付きスペースのこと。

3 新さっぽろ駅周辺地区のまちづくり計画について

広場・公園が含まれる新さっぽろ駅周辺地区は、札幌市まちづくり戦略ビジョン^{※1}（以下、「戦略ビジョン」という）において、区の拠点としての役割を担う重要なエリア<地域交流拠点^{※2}>に位置付けられています。

また、そのような中、同地区において市営住宅の建て替え・集約化により広大な開発可能地（G街区・I街区^{※3}）が発生したことから、これらの利活用を中心にまちづくり全体の方向性を定めた「新さっぽろ駅周辺地区まちづくり計画」（以下、「まちづくり計画」という）を2014年（平成26年度）に策定しました。

まちづくり計画に基づき、2016年（平成28年度）にはG街区I街区の開発事業者を募集する公募提案型売却を実施し、最優秀提案者が決定したため、今後新たな民間開発が予定されています。

また、図1-1（P.2）のA・Cは、株札幌副都心開発公社が所有する土地であり、現在は暫定的に駐車場として利用されていますが、今後新たな開発が見込まれています。

このように、新さっぽろ駅周辺地区では、今後新たな機能集積が予定されており、まちづくりとしても大きな転換期を迎えることが予想されます。

なお、広場・公園は、まちづくり計画内において、周辺開発に関連して再整備を検討する必要がある重要な施設として位置付けられており、更なる利便性の向上や、G街区側などとのアクセシビリティの向上等について検討を行うこととしています。

※1…平成25年度に策定された札幌市のまちづくりにおける最上位計画

※2…交通結節点である主要な地下鉄・JR駅の周辺で、都市基盤の整備状況や機能集積の現況・動向などから、地域の生活を支える主要な拠点としての役割を担う地域のほか、区役所を中心に生活利便機能が集積するなどして、区の拠点としての役割を担う地域

※3…I街区は、市営住宅跡地に株札幌副都心開発公社が所有する図1-1（P.3）のBを加えて大街区化を行った開発可能地



図1-2 新さっぽろ駅周辺施設概要図

4 アクションプランでの位置付け

札幌市では、戦略ビジョンを実現するために、2015年（平成27年度）～2019年（平成31年度）までの5年間における中期実施計画として「札幌市まちづくり戦略ビジョン・アクションプラン2015」（以下、「アクションプラン」という）を策定しました。（2016年（平成28年度）策定）

アクションプランとは、財政規律を堅持しつつ、適切な未来への投資を行うことで、戦略ビジョンの実現をより一層進めていくことを目的に策定された計画です。

広場・公園の再整備は、このアクションプラン事業の一つとして位置付けられ、2017年（平成29年度）～2019年（平成31年度）までの進め方及び財政計画について定められています。

年度	2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (平成31年度)	2020年度
内容	再整備計画 の策定	実施設計	再整備工事 ・広場・公園ともに 40/100に当たる整備	再整備工事 ・広場・公園ともに 60/100に当たる整備
計画額	5,000千円	11,000千円	74,000千円	未定

図1-3 アクションプランのスケジュール

第2章 ふれあい広場あつべつ・科学館公園を取り巻く現況

1 札幌市・厚別区の現状

(1) 人口

■札幌市の人口

「将来推計人口に基づく地域分析調書（平成26年10月）」の推計によると、これまで増加し続けていた札幌市の人口は、2017年（平成29年）をピークに減少に転じ、2037年の推計は、約180万人まで減少すると見込まれています。また、老年人口（65歳以上）の割合は2037年で35.1%にまで増加し、3人に1人以上が高齢者になると見込まれています。

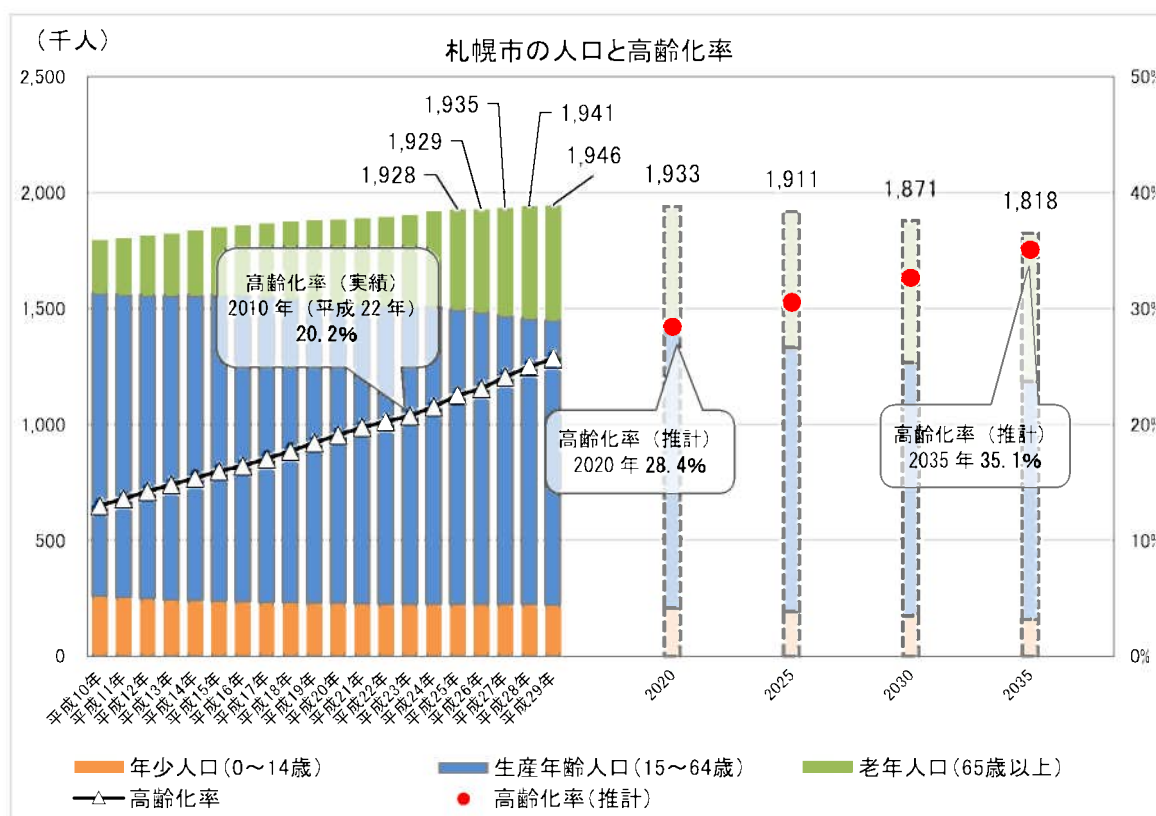


図2-1 札幌市の人口と高齢化率の推移（推計含む）

※高齢化率の実績は2008年（平成10年）～2017年（平成29年）、推計は平成32年～47年を表示しています。

※高齢化率とは、全体に占める65歳以上の人口の割合を意味します。

出典：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調書

■札幌市の区別の人口

区別の人口は、2015年（平成27年）と2017年（平成29年）を比べると、南区と厚別区は既に減少に転じています。

厚別区は、2035年には、2015年（平成27年）に比べ、約1万8千人（約15%）減少することが見込まれています。

表 2-1 札幌市の区別の人口

	2015年 平成27年		2016年 (平成28年)		2017年 (平成29年)		2020年		2025年		2030年		2035年	
	人口 (人)	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)	2015年 対比	人口 (人)
札幌市	1,941,078	1,947,127	100.3%	1,951,640	100.5%	1,933,000	99.6%	1,911,000	98.5%	1,871,000	96.4%	1,818,000	93.7%	
中央区	229,936	232,129	101.0%	233,576	101.6%	246,400	107.2%	254,200	110.6%	259,300	112.8%	262,100	114.0%	
北区	283,001	284,585	100.6%	285,441	100.9%	286,500	101.2%	285,200	100.8%	281,400	99.4%	275,200	97.2%	
東区	259,648	261,212	100.6%	262,048	100.9%	254,700	98.1%	250,500	96.5%	244,300	94.1%	236,400	91.0%	
白石区	210,577	211,164	100.3%	211,679	100.5%	204,700	97.2%	201,900	95.9%	197,400	93.7%	191,600	91.0%	
厚別区	129,200	128,339	99.3%	127,854	99.0%	124,700	96.5%	120,900	93.6%	115,900	89.7%	110,000	85.1%	
豊平区	218,841	219,849	100.5%	221,094	101.0%	212,100	96.9%	208,700	95.4%	203,700	93.1%	197,400	90.2%	
清田区	114,988	115,167	100.2%	115,008	100.0%	118,400	103.0%	117,100	101.8%	114,700	99.7%	111,300	96.8%	
南区	141,032	140,026	99.3%	138,999	98.6%	133,900	94.9%	126,200	89.5%	117,800	83.5%	108,700	77.1%	
西区	212,671	213,262	100.3%	214,066	100.7%	213,400	100.3%	210,500	99.0%	205,700	96.7%	199,300	93.7%	
手稲区	141,184	141,394	100.1%	141,875	100.5%	138,600	98.2%	135,500	96.0%	131,200	92.9%	125,700	89.0%	

実績 ←→ 推計

※出典：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調査（札幌市）

■厚別区の人口

厚別区の人口は、2017年（平成29年）10月時点では、約12万9千人となっています（市内10区のうち、下から2番目の人口）。また、世帯数は、約5万5千世帯となっています（札幌市10区のうち、下から2番目の世帯数）。

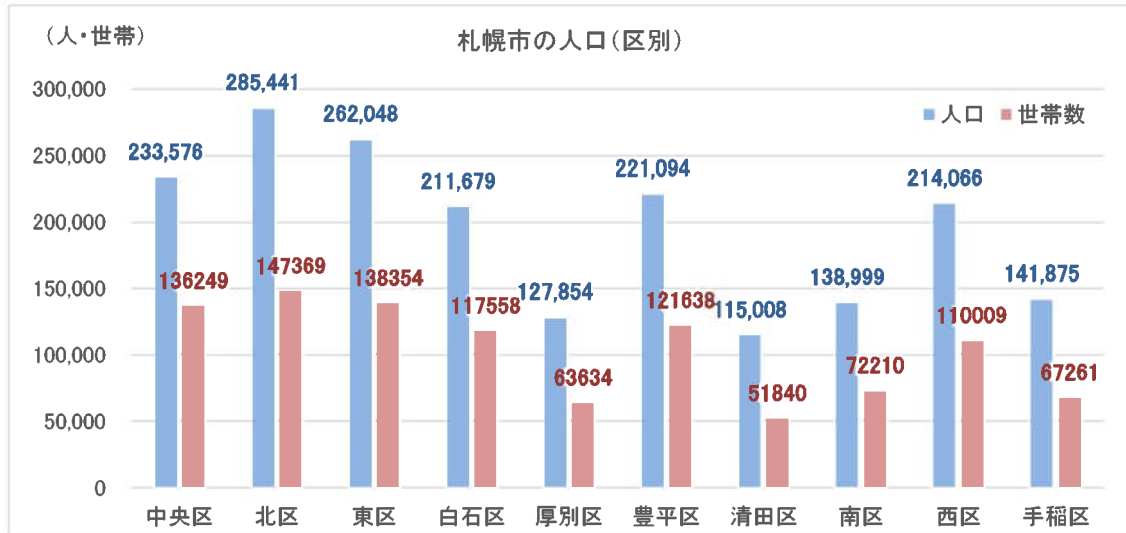


図 2-2 札幌市の区別の人口

※出典：住民基本台帳（2017年（平成29年）10月1日現在）

厚別区の将来人口は、2015年（平成27年）から2035年までに、生産年齢人口が約3割減少、老年人口が約1.2倍増加し、少子高齢化が進行することが見込まれています。

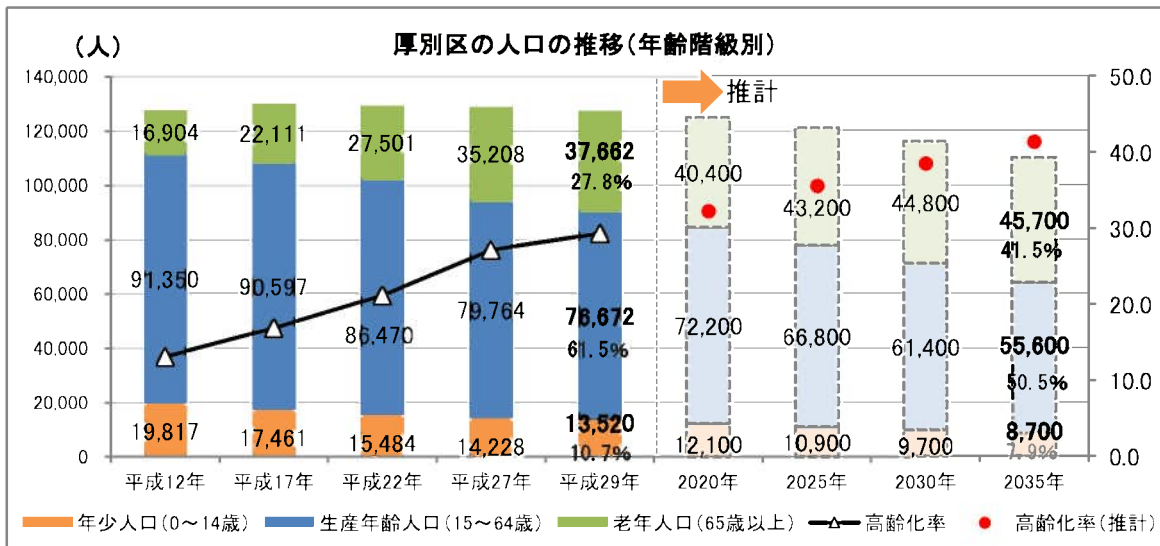


図 2-3 厚別区の人口の推移（推計含む）

※出典：実績は住民基本台帳（各年10月1日現在）、推計は将来推計人口に基づく地域分析調査（札幌市）

(2) 公共交通機関

厚別区は、JR 函館本線（全 2 駅）と JR 千歳線（全 2 駅）及び地下鉄東西線（全 3 駅）が敷設されており、市内でも交通利便性の高い地域となっています。

中でも、新さっぽろ駅周辺地区は、JR と地下鉄が重層的に配置され、バスネットワークも充実しているなど非常に交通至便な地域となっており、地下鉄の始発駅でもあることから、多くの人が足を運ぶ地域となっています。

■地下鉄

新さっぽろ駅の 1 日平均乗車員数は 2012 年（平成 24 年）から増加傾向にあります。2015 年（平成 27 年）は札幌市営地下鉄の中で、さっぽろ駅、大通駅、麻生駅に次いで 4 番目に多くなっています。

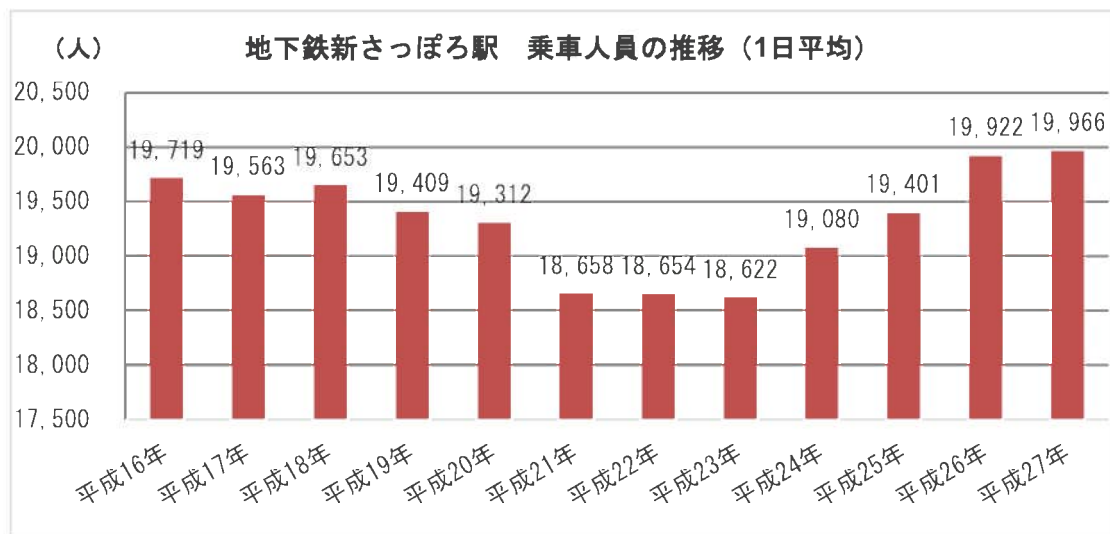


図 2-4 地下鉄新さっぽろ駅 乗車人員の推移（1 日平均）

出典：札幌の都市交通データ（札幌市）

表 2-2 道内主要駅の乗車人数上位 10 駅（2015 年度（平成 27 年度））

位	駅名	乗車人員（人/日）
1	さっぽろ	85,299
2	大通	76,736
3	麻生	20,658
4	新さっぽろ	19,966
5	福住	17,048
6	すすきの	16,971
7	西 11 丁目	15,524
8	西 18 丁目	15,505
9	円山公園	14,601
10	北 24 条	13,897

■ J R

新札幌駅の利用者数は、2009年（平成21年）以降増加傾向にあり、2015年（平成27年）は道内のJR駅の中で札幌駅、手稲駅、新千歳空港駅に次いで4番目に多くなっています。

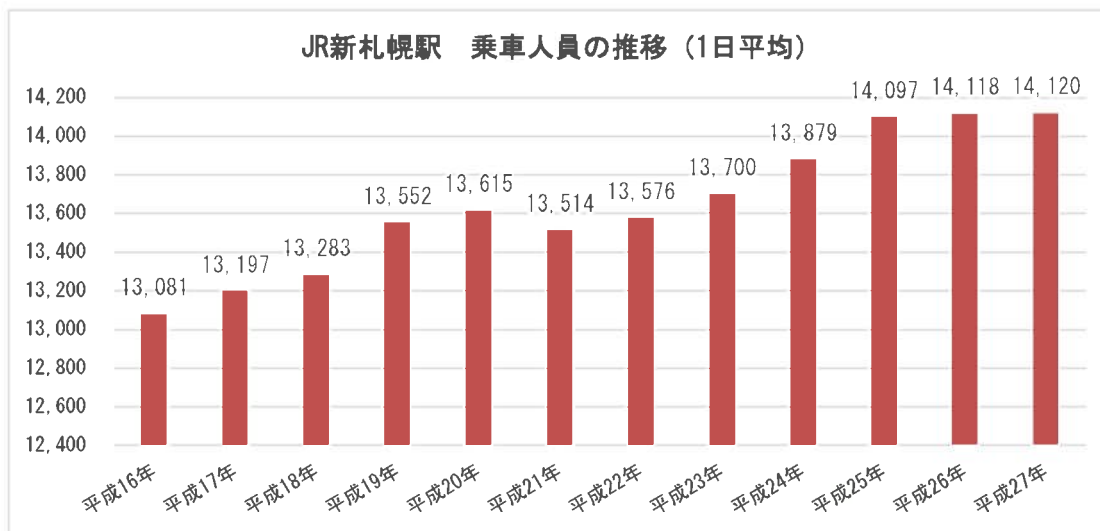


図 2-5 JR 新札幌駅 乗車人員の推移 (1日平均)

出典：札幌の都市交通データ（札幌市）

表 2-3 道内主要駅の乗車人数上位 10 駅 (2015 年度 (平成 27 年度))

位	駅名	乗車人員 (人/日)
1	札幌	95,288
2	手稲	15,335
3	新千歳空港	15,066
4	新札幌	14,120
5	琴似	11,518
6	桑園	10,084
7	小樽	8,973
8	千歳	8,623
9	白石	7,928
10	北広島	7,605

■ バス

新札幌バスターミナルからは、厚別区内はもとより、札幌市内の都心部や隣接する清田区方面、また近隣市である江別市や北広島市方面をつなぐバスネットワークが充実しており、1日約1,200便が発着しています。

これにより、広範な地域の方々の地下鉄・JRへのアクセス性を高めることができ、交通結節点としての当地区の役割に大きく貢献しています。

(3) 周辺施設

広場・公園周辺には、厚別区役所や区民センターなどの公共機能や商業機能が充実し、非常に利便性の高いエリアとなっています。また、今後も大規模な民間開発による新たな機能集積が予定されています。広場・公園はその中心に位置し、当地区全体への回遊性やにぎわいの連続に大きな影響を与える場所となっています。



図 2-6 広場・公園周辺図

■厚別区民センター（厚別図書館併設）

厚別区役所と同一敷地内にある厚別区民センターは、ホールや和室などが完備され、各種団体の催しやサークルなどの地域活動を促進する施設として運営されています。

囲碁や将棋などを楽しむ集まり、親子で参加できる各種講座、学生の部活動等による利用やあつべつふれあいコンサートの開催など、様々な利用がなされています。

区民センターは市内各区に1か所整備されていますが、全市平均の利用率66.4%に対し、厚別区民センターは73.1%となっており、全市で2番目に高い利用率となっています。

また、併設されている厚別図書館は、札幌市の図書館のうち、中央図書館に次いで2番目に来館者の多い施設となっています。

表 2-4 厚別区民センターの年間利用件数等

		2015年 (平成27年) 実績	2016年 (平成28年) 実績
ホール	件数 (件)	677	725
	人数 (人)	46,129	45,062
	稼働率 (%)	63.4	65.8
会議室	件数 (件)	2,710	2,622
	人数 (人)	33,506	31,772
	稼働率 (%)	84.2	81.5
実習室等	件数 (件)	1,419	1,482
	人数 (人)	24,021	24,480
	稼働率 (%)	67.1	69.4
和室	件数 (件)	2,213	2,257
	人数 (人)	43,812	46,654
	稼働率 (%)	68.9	69.4
計	件数 (件)	7,019	7,086
	人数 (人)	147,468	147,968
	稼働率 (%)	73.0	73.1

表 2-5 厚別図書館の年間来館者数

年度	来館者数	営業日数
2015年度 (平成27年度)	212,554人	326日
2016年度 (平成28年度)	201,350人	324日

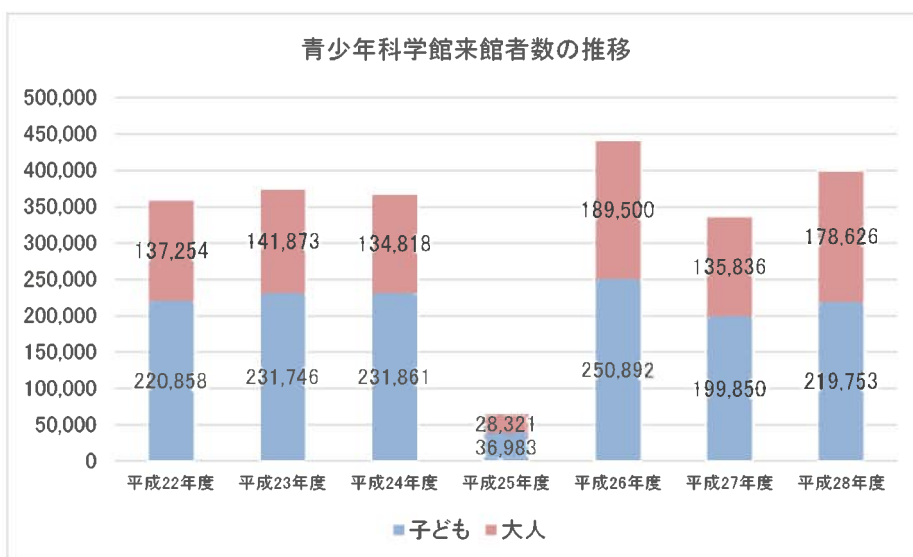
出典：札幌市

(以下、出典が札幌市の図表は出典の記載を省略)

■ 青少年科学館

青少年科学館の来館者数は、2013年度（平成25年度）に耐震改修工事で約一年間休館した際に行った展示コーナーの一部改修の結果、2014年度（平成26年度）には、1981年（昭和56年）の開館以来最大となる約44万人を記録するなど来館者数が増加しています。

また、2016年度（平成28年度）には、約20年ぶりにプラネタリウム機器を更新し、世界最高水準となる約1億個の星空を再現するとともに、高精細な映像を映し出すことができるようになり、小中学生を中心とした子どもたちだけでなく、幅広い年齢層の方々の来館も増加してきています。



注:1)平成25年5月7日～平成26年4月23日耐震改修工事等のため休館

2)平成27年11月2日～平成28年4月13日機器更新のためプラネタリウム休止

図 2-7 青少年科学館来館者数の推移



2014年度（平成26年度）リニューアルした「天文・地球科学コーナー」



2016年度（平成28年度）リニューアルした「プラネタリウム」

■ サンピアザ水族館・劇場

サンピアザ水族館の来館者数は、2016年度（平成28年度）には約15万5千人が来館しており、季節ごとに行われる特別展では、夏休み特別展の来館者数が最も多くなっています。

また、サンピアザ劇場の来館者数は増加傾向にあり、2016年度（平成28年度）には約1万8千人来館しています。主な利用としては、演奏会・発表会や演劇での利用が多くなっています。

表 2-6 サンピアザ水族館来館者数（年齢別）

	2014年度 （平成26年度） （人）	2015年度 （平成27年度） （人）	2016年度 （平成28年度） （人）
大人	97,620	97,957	102,489
子供	51,588	50,284	53,158
計	149,208	148,241	155,647



サンピアザ水族館の様子

表 2-7 サンピアザ水族館来館者数（期間別）

	2014年度 （平成26年度） （人）	2015年度 （平成27年度） （人）	2016年度 （平成28年度） （人）
GW特別展	13,813	13,362	17,400
夏休み特別展	31,543	28,470	29,001
秋の特別展	18,466	9,306	13,499
冬休み特別展	8,886	11,168	12,573
春休み特別展	9,589	11,352	14,944

表 2-8 サンピアザ劇場来館者数（イベント別）

	2014年度 （平成26年度） （人）	2015年度 （平成27年度） （人）	2016年度 （平成28年度） （人）
コンサート	2,199	2,522	3,581
演奏会・発表会	4,975	4,060	6,356
ピアノ発表会	798	1,322	932
講演会・研修会	697	1,588	1,056
落語会	254	762	400
カラオケ	739	791	150
学生演劇	1,626	1,865	2,517
演劇	3,503	2,268	3,198
上映会	179	334	412
その他	377	0	0
計	15,170	15,512	18,602



サンピアザ劇場の様子

表 2-9 サンピアザ劇場稼働日数（平日・休日別）

	2014年度 （平成26年度）		2015年度 （平成27年度）		2016年度 （平成28年度）	
	稼働日数 （日）	稼働率	稼働日数 （日）	稼働率	稼働日数 （日）	稼働率
平日	74	30.2%	49	19.8%	64	26.2%
土日祝	85	70.8%	74	62.7%	84	68.9%
計	159	43.6%	123	33.6%	148	40.4%

※出典：株式会社札幌副都心開発公社

■光の広場

サンピアザ1階にある光の広場は、展示会や各種催しに対応できるスペース（約400㎡）となっており、2016年度（平成28年度）の利用状況は243日間/年で、利用率66.6%となっています。吹奏楽部コンサートや物産展などの催しが多数実施されています。

表 2-10 光の広場での主な利用目的（2016年度（平成28年度））

分 類	日数 (日)
芸術・文化（展示、コンテストなど）	32
音楽（コンサートなど）	14
食（物産展、マルシェなど）	10
商業施設・テナント関連	127
その他	60
合 計	243



光の広場の様子

※その他は、新春イベントや日本ハムファイターズトークショーなど

※出典：札幌幌副都心開発公社

再整備に向けて（人口・公共交通・周辺施設の現状を踏まえて）

厚別区は、札幌市の中でも少子高齢化が進んでおり、今後もその傾向が続くことが予想されます。引き続き、広場・公園を活用し、区を中心である新さっぽろ駅周辺地区におけるにぎわいを創出し、それを区全体へ波及させること、また**幅広い世代に魅力を感じてもらえるような地域づくりに貢献**していかなければなりません。

公共交通機関が至便な当地区では、通勤・通学、買い物等で多くの方が足を運び、さらに、周辺の青少年科学館や水族館など楽しみながら学べる多くの施設によって、文化・教育的な風土が生まれ、小さな子ども連れの家族が多く訪れます。

さらに、区民センターやサンピアザ劇場や光の広場では、**演奏会や発表会・演劇など、多くの若者や学生が活躍**しています。

今後、広場・公園は、多くの方々が来訪する地域にある優位性を生かし、**若者や学生が活躍し、多世代の交流を促進**できるような活用を目指す必要があります。

2 ふれあい広場あつべつ・科学館公園の利用状況

(1) 広場の利用状況

ふれあい広場あつべつでは、1年を通して様々なイベントが行われています。

表 2-11 広場での主な利用実績（2016年度（平成28年度））

	イベント名	規模	参加人数 (人)	概要
1	ノルディックウォーキング体験講座	小	40	2本のポールを持って歩くノルディックウォーキングの体験講座
2	大工のゆうさんと遊ぼう 木育ふれあい広場 in あつべつ	小	100	木製玩具などの木製品に触れる場や木工工作の体験会を実施
3	区民交流ウォーキング大会	小	130	区民の健康づくりとウォーキングによる交流を促進
4	春だ！大人も子供も新札春まつり！	小	200	全国のB級グルメブースなどを展開
5	札幌市厚別消防団消防 総合訓練大会	小	200	区内の消防団員の訓練大会や、防災グッズ等の啓発を実施
6	地球スペシャル エイサーページェント	小	500	沖縄伝統芸能であるエイサー体験、関連飲食ブースなどを展開
7	フリーマーケット	中	1,000	市民が多く集うフリーマーケット。平成28年は5回開催。
8	子育てふれあいサマーフェスタ	中	1,000	水遊び・昔遊びなど、乳幼児から小学生まで楽しめる夏祭り
9	00-1 グランプリ	中	1,000	札幌おやじネットワーク等によるグルメNO.1決定戦イベント
10	夢市場あつべつ	中	1,400~ 2,500	フリーマーケットや障がい者小規模共同作業所による展示・販売、環境啓発などを目的とした協働企画を開催
11	YOSAKOIソーラン祭り 新さっぽろ「あっこい」	大	3,000	YOSAKOIソーラン祭りの新さっぽろ会場
12	新さっぽろ冬まつり	大	3,800	雪のすべり台や小雪像、雪遊びコーナーのアトラクションを展開
13	厚別区子どもまつり	大	4,000	キッズダンスや吹奏楽、出店コーナーなど子どものお祭り
14	厚別区民まつり	大	70,000	各種ステージイベントや飲食ブースが展開される厚別区最大の催し

【規模について】

小：小規模イベント 参加者数 ～1,000人程度 ※複数回開催しているイベントあり
 中：中規模イベント 参加者数 1,000～3,000人程度 ※参加人数は申込時の申請人数
 大：大規模イベント 参加者数 3,000人程度～

■主なイベントの紹介

○ YOSAKOIソーラン祭り新さっぽろ「あつこい」〔6月開催〕

YOSAKOIソーラン祭りの新さっぽろ会場として、厚別区民の有志によって運営されており、当日は全国各地から集まった踊り子たちの熱い演舞が繰り広げられています。また、YOSAKOIソーランだけでなく、厚別区にゆかりのある吹奏楽団体の演奏なども披露されています。



YOSAKOIソーラン祭り新さっぽろ「あつこい」の様子

○ 厚別区民まつり〔7月開催〕

厚別区民の交流の機会として、町内会や企業、関係団体など区民が主体となって開催している夏祭りです。1990年（平成2年）から毎年開催しており、2日間にわたってビアガーデン・食べ物コーナー等の出店のほか、キッズダンスやYOSAKOIソーラン、バンド演奏等のステージ、厚別音頭踊りなどが披露され、厚別区全体が盛り上がる代表的なイベントとなっています。



厚別区民まつりの様子

○ 厚別区子どもまつり〔9月開催〕

巨大迷路や綿あめなどの出店のほか、吹奏楽演奏やキッズダンスなど、地域で活動している団体によるステージ発表が披露されます。また、各地域の子どもたちも縁日やゲームコーナーなどの運営を大人と一緒に担っており、おまつりを楽しむ場というだけではなく、社会体験の場、世代間の交流の場としても貴重な催しとなっています。



厚別区子どもまつりの様子

○ 新さっぽろ冬まつり〔1月開催〕

雪のすべり台や雪遊びコーナー、手づくり雪像などが作られ、子ども連れの親子などでにぎわう冬のイベントです。「地域住民・団体の手で会場を作り、参加できるおまつり」をコンセプトに2日間にわたって開催されており、冬の屋外でもゆっくり楽しんでもらえるよう、暖かい飲食の提供も地域の人の手で行われています。冬場のにぎわいを作り出す、厚別の冬の風物詩の一つとなっています。



新さっぽろ冬まつりの様子